

熱中症予防のための新たな情報発信「熱中症警戒アラート」について

令和3年4月下旬より全国で本格実施

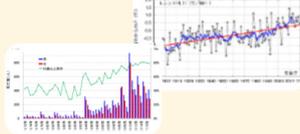


熱中症警戒アラート

環境省・気象庁が新たに提供する、暑さへの「気づき」を呼びかけるための情報。熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される際に発表し、国民の熱中症予防行動を効果的に促す。

1. 背景

- 熱中症による死亡者数・救急搬送者数は増加傾向にあり、気候変動等の影響を考慮すると熱中症対策は極めて重要



2. 発表方法

- 高温注意情報を、熱中症の発生との関係が高い暑さ指数（WBGT）を用いた新たな情報に置き換える

暑さ指数（WBGT）とは、人間の熱への影響の大きさ
気温 湿度 輻射熱
 の3つを取り入れた暑さの厳しさを示す指標です。

※各地域の暑さ指数は環境省の熱中症予防情報サイト参照

3. 発表の基準

- 都道府県（※）のどこかの地点で暑さ指数（WBGT）が**33以上になると予測した場合に発表**（※府県予報区単位）

暑さ指数 (WBGT)	暑さ指数発表の基準	日常生活における注意事項	熱中症予防対策
33以上	暑さ指数が33以上になると予測される場合、暑熱環境に注意し、外出を控えるなど、暑さ対策を講ずる。	暑熱環境に注意し、外出を控えるなど、暑さ対策を講ずる。	暑熱環境に注意し、外出を控えるなど、暑さ対策を講ずる。
28~31℃	暑さ指数が28~31℃になると予測される場合、暑熱環境に注意し、外出を控えるなど、暑さ対策を講ずる。	暑熱環境に注意し、外出を控えるなど、暑さ対策を講ずる。	暑熱環境に注意し、外出を控えるなど、暑さ対策を講ずる。
25~27℃	暑さ指数が25~27℃になると予測される場合、暑熱環境に注意し、外出を控えるなど、暑さ対策を講ずる。	暑熱環境に注意し、外出を控えるなど、暑さ対策を講ずる。	暑熱環境に注意し、外出を控えるなど、暑さ対策を講ずる。
21~24℃	暑さ指数が21~24℃になると予測される場合、暑熱環境に注意し、外出を控えるなど、暑さ対策を講ずる。	暑熱環境に注意し、外出を控えるなど、暑さ対策を講ずる。	暑熱環境に注意し、外出を控えるなど、暑さ対策を講ずる。

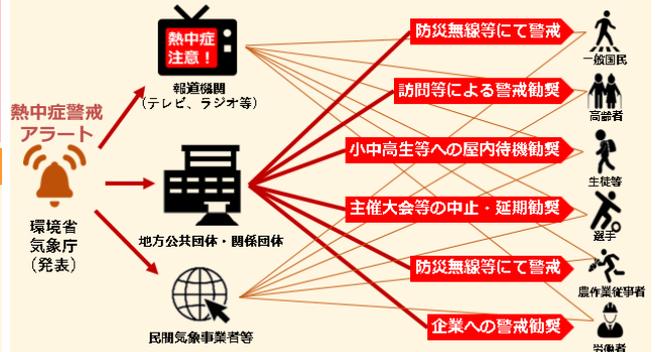
注1) 日本生気象学会指針より引用
 注2) 日本スポーツ協会指針より引用

4. 発表の地域単位・タイミング

- <地域単位>
 - 気象庁の府県予報区単位で発表
 - 該当府県予報区内の観測地点毎の予測される暑さ指数（WBGT）も情報提供

- <タイミング>
 - 前日の17時頃及び当日の朝5時頃に最新の予測値を元に発表
 - 報道機関の夜及び朝のニュースの際に報道いただくことを想定
 - 「気づき」を促すものであるため、一度発表したアラートはその後の予報で基準を下回っても取り下げない

5. 情報の伝達方法（イメージ）



6. 発表時の熱中症予防行動例

- 熱中症の危険性が極めて高くなると予測される日の前日または当日に発表されるため、**日頃から実施している熱中症予防対策を普段以上に徹底することが重要。**
 - 不要不急の外出は避け、昼夜を問わずエアコン等を使用する。
 - 高齢者、子ども、障害者等に対して周囲の方々から声かけをする。
 - 身の回りの暑さ指数（WBGT）を確認し、行動の目安にする。
 - エアコン等が設置されていない屋内外での運動は、原則中止/延期をする。
 - のどが渇く前にこまめに水分補給するなど普段以上の熱中症予防を実践する。

7. 令和3年度以降の検証について

- 令和3年度の全国展開以降、定期的に「熱中症警戒アラート」の発表状況等を踏まえた検証を実施し、効果の算出に努める。
- 継続的に検証を重ね、今後の熱中症対策の課題改善に繋げる。

熱中症警戒アラートの令和2年夏の先行実施について

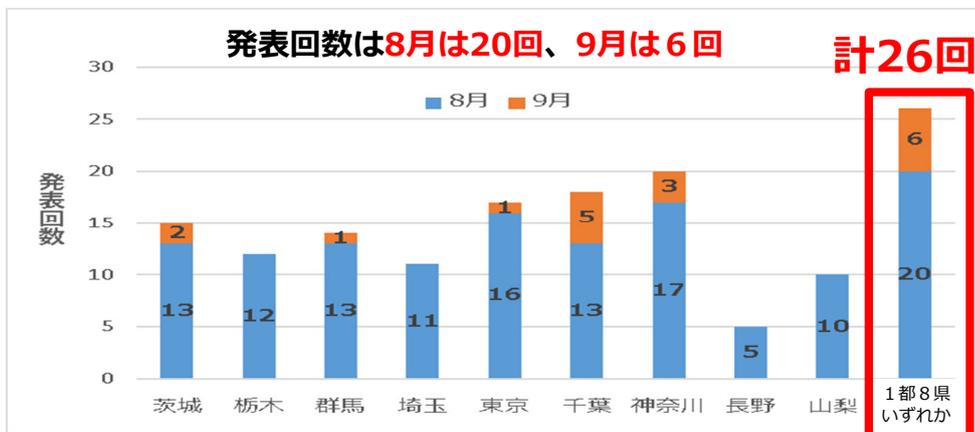
令和2年夏の「熱中症警戒アラート」の発表実績

対象期間

- 令和2年7月1日～同年10月28日

対象エリア

- 関東甲信地方（1都8県）



※「1都8県いずれか」とは、いずれかの都県でアラートが発表された場合を1回とカウント

WBGT33≥出現頻度	茨城	栃木	群馬	埼玉	東京	千葉	神奈川	長野	山梨
年平均出現回数 (2014~2019)	14	15	16	13	13	21	8	6	10